

平成23年4月20日



# 研究だより

第27号

自治医科大学附属さいたま医療センター



## 基礎実験の日々

循環器科 教授 阿古 潤哉

実は私も培養細胞やラットやマウスを相手に基礎医学の実験をやっていたことがある。研修に出た病院で臨床を学ぶ日々を過ごしたのちに、医局からの命令で大学病院に呼び戻された時のことである。もう15年近く前の話になろうか。正直、基礎実験には強い興味があるわけでもなく、どのようなものかも全く分からなかったし、ある意味強制的に大学での研究を行うようにさせられたというきらいもないわけではなかった。何はともあれ、カテーテル中心の生活から大幅に転換して、ピペットとピンセットを武器とした研究生活に飛び込むことになった。

冠動脈形成術後には、治療した部分が再び狭窄してしまう再狭窄と呼ばれる現象が生じることが知られている。再狭窄が起きると狭心症が再発するので、臨床的にも非常に問題となっていた、いや、正確に言うと今でもかなり大きな問題である。基礎の実験でこの再狭窄をいかにコントロールするかと言うのを研究することを考えた。再狭窄の中心となる病態は血管平滑筋細胞の増殖であると考えられていたので、細胞周期のコントロールによる増殖の抑制や、あるいは当時の流行であったアポトーシス誘導などで再狭窄を抑制するというちょっと無謀な目標を立てた。

まずは *in vitro* の実験である。使用する細胞の選択から始めて何の薬剤を振りかけるか、どんな遺伝子が動いてどこの系を抑えれば薬剤の効果が表れるかあるいは減弱するかなど、一見すると単純そうな実験一つにしてもかなり事前の準備と計画が重要であることが初めて理解された。ネガティブコントロール、ポジティブコントロール、用量依存性、さまざまな実験計画を周到に用意しないとことごとく無駄な実験とな

る。タイムコースも重要な要素なので、実験開始時間をうまく準備しないと8時間後や12時間後の検体採取は真夜中や早朝になってしまうこともあり、基礎実験も結構体力を消費した。

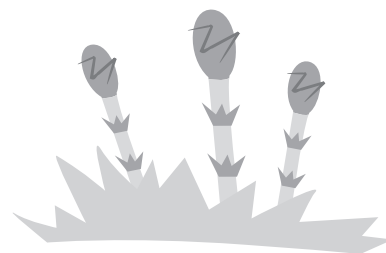
次には、*vitro* の結果をもとに *vivo* の実験を考えることになる。ここでも、どの動物を用いてどの実験モデルで結果を出すのか、また、結果が出たとしてその実験モデルはヒトでいうところのどの病態に一番近いモデルなのかなどをあらかじめ考察しておかないといけないということも勉強した。論文で見る図や表の一つにいかにも多くの労力がかかっているかということがようやく理解されるようになった。また、さらには実験の結果を出すだけでなく、論理的に一番重要な部分を示すことと、自分の結果をサポートするような別の結果を持つてくることなどを行うことが要求された。他人を説得するプレゼンテーションを行うことも必要とされていることがようやく理解されるようになった。

で、肝心の実験で、目標であった再狭窄のコントロールはできたのであろうか？ *vivo* の実験まで来たのである程度のところまでは到達していたのでは？ さて、実はその研究をやっている時に、アメリカとヨーロッパで薬剤溶出型ステント (Drug-eluting stent : DES) が実用化されると聞きつけた。これは急がねばと基礎実験データは引き継いで、私自身は DES の臨床データの研究目的にアメリカに渡ることを決意したのであった。結局、基礎医学者としては良い仕事はできなかったことになる。しかし、DES の出現により再狭窄を臨床的にかなり抑制することが可能になり、再狭窄抑制に対する基礎医学側の興味が急速に薄れていったことを見ると、あのまま日本で研究を続けても

どうなったことか分からず、この転身も悪くなかったのかという気もしている。

ヒトを対象とするがゆえに常に慎重でなければならぬ臨床に対し、大胆に新たな試みができるのは基礎医学の楽しみの一つである。少しさびしい気もするが、今は自分で基礎実験に参加あるいは計画したりす

ることはかなり少なくなった。しかし、そこから学んだ物の見方や考えかたは、科学的な考察を行うという点において無駄にはなっていないはずだと感じている。最初は少し無理やりではあったが基礎の世界を勉強させていただいた諸先輩方に今となっては感謝している。



## 研究の成果

### 総合医学 1

#### ■ 消化器科

[学会、講演会、研究会] (2010年12月～2011年2月)

\* 第91回日本消化器内視鏡学会関東地方会 (2010.12.10) 東京

1) 福西昌徳, 宮谷博幸, 和田英則, 吉川修平, 上原健志, 池谷敬, 池田正俊, 東海浩一, 牛丸信也, 松本吏弘, 浅野岳晴, 高松徹, 岩城孝明, 鷺原規喜, 浅部伸一, 吉田行雄: 内視鏡的食道バルーン拡張術およびH.Pylori除菌により治療し得たPlummer-Vinson症候群の1例. Progress of Digestive Endoscopy 2010; 77:80.

\* 第587回日本内科学会関東地方会 (2011.2.12) 東京

2) 岩井悠希, 浅野岳晴, 牛丸信也, 浅部伸一, 鷺原規喜, 宮谷博幸, 吉田行雄: DLST 2剤陽性となり, 黄疸の遷延した薬剤性肝障害の1例. 第587回日本内科学会関東地方会抄録2011: 41.

[原著その他論文] (2010年12月～2011年2月)

1) 上原健志, 松本吏弘, 宮谷博幸, 新藤雄司, 浦吉俊輔, 山中健一, 樋口祐介, 池田正俊, 東海浩一, 牛丸信也, 浅野岳晴, 高松徹, 福西昌徳, 岩城孝明, 鷺原規喜, 吉田行雄. 経直腸EUS-FNAが診断に有用であった小腸GISTの1例. Progress of Digestive Endoscopy 2010; 77:110-111.

2) 東海浩一, 宮谷博幸, 新藤雄司, 上原健志, 池谷敬, 池田正俊, 牛丸信也, 浅野岳晴, 松本吏弘, 高松徹, 福西昌徳, 岩城孝明, 鷺原規喜, 吉田行雄, 小西文雄. 当院における直腸カルチノイド13症例の検討. Progress of Digestive Endoscopy 2010; 77:54-55.

[その他] (2010年12月～2011年2月)

1) 第6回彩の国消化器談話会 (2010.12.1) さいたま市, ラフレさいたま

宮谷博幸「興味ある画像を呈した消化器疾患③」

2) ESDフォーラム (2011.1.12) さいたま市, パレスホテル

東海浩一「トンネル法を用いた食道ESD」

3) 第35回埼玉大腸疾患研究会 (2011.2.5) さいたま市, 大宮法科大学院

大竹はるか, 他: 症例提示 診断困難であった大腸狭窄症の1例.

4) 第4回埼玉県東部治療内視鏡検討会 (2011.2.9) さいたま市, ラフレさいたま

松本吏弘: 症例提示 十二指腸カルチノイド

5) IBD治療研究会 (2011.2.23) さいたま市, ソニックスシティ大宮

鷺原規喜, 他: 症例検討 当院におけるUCの症例

## ■ 内分泌代謝科

平成23年1月～3月における内分泌代謝科の研究発表です。日本内分泌学会臨床内分泌代謝 Update で為本浩至、浅野智子、日本糖尿病学会関東甲信越地方会で佐々木正美、山田穂高、日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会で生駒亜希がそれぞれ発表しました。また、浅野智子が厚生労働省難病対策事業間脳下垂体機能障害調査研究班会議で報告しました。

- 1) 浅野智子、佐々木正美、石川三衛：鞍内占拠部位により特異な下垂体障害、尿崩症を呈したラトケ嚢胞の解析 厚生労働省難治性疾患克服研究事業間脳下垂体機能障害に関する調査研究班平成22年度班会議 2011年1月7日 東京都
- 2) 山田穂高、浅野智子、佐々木正美、吉田昌史、村田美保、生駒亜希、豊島秀男、加計正文、石川三衛、川上正舒：歩行困難を主訴に来院した糖尿病性ケトアシドーシスの1例 第48回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2011年1月29日 東京都
- 3) 佐々木正美、山田穂高、大熊志保、浅野智子、青木厚、村田美保、生駒亜希、豊島秀男、加計正文、石川三衛、川上正舒：糖尿病教育入院で発見された高度のリスフラン関節破壊の1例 第48回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2011年1月29日 東京都
- 4) 浅野智子、吉田昌史、村田美保、青木厚、佐々木正美、生駒亜希、齊藤智之、川上正舒、石川三衛：著しい横紋筋融解症を呈した視床下部性汎下垂体機能低下症の1例 第20回臨床内分泌代謝 Update (日本内分泌学会主催) 2011年1月28-29日
- 5) 為本浩至、齊藤智之、村田美保、生駒亜希、豊島秀男、松浦克彦、野田弘志、小西文雄、川上正舒、石川三衛：胃潰瘍を伴わず慢性の下痢のみを呈したガストリノーマの1例 第20回臨床内分泌代謝 Update (日本内分泌学会主催) 2011年1月28-29日
- 6) 生駒亜希、浅野智子、青木厚、村田美保、佐々木正美、豊島秀男、加計正文、川上正舒、石川三衛：発症後約50年間経過し、80歳で低Na血症で見いだされた下垂体機能低下症の1症例 第11回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2011年3月4-5日 横浜市

## ■ 呼吸器科

平成23年1月～23年6月

### 学会参加

- 1) 日本環境感染学会 2011/02/18-19 横浜
- 2) 日本内科学会 2011/04/15-17 東京
- 3) 日本呼吸器学会 2011/04/22-24 東京
- 4) 日本肺癌学会 2010/11/3, 4 広島
- 5) 日本アレルギー学会春季大会 2011/05/14-15 東京
- 6) 日本結核学会 2011/06/02-03 東京
- 7) 日本化学療法学会 2011/06/23-25 札幌

### 論文

- 1) Chihiro Miwa, Shinichiro Koyama, Yasutaka Watanabe, Hiroyoshi Tsubochi, Shunsuke Endo, Mitsuhiro Nokubi, Yoshinori Kawabata. Pathological findings and pulmonary dysfunction after acute respiratory distress syndrome for five years. *Inter Med* 49: 1599-1604, 2010
- 2) 中野智之、金井義彦、手塚憲志、坪地宏嘉、小山信一郎、遠藤俊輔。無症候性の後天性左上葉気管支閉塞症の1手術例 32: 314-318, 2010

### 著書、総説

- 1) 小山信一郎 呼吸器疾患の病態と診断・治療 気管支喘息(成人) 医学と薬学 64:131-139, 2010
- 2) 三輪千尋、小山信一郎。第5章 29. ピークフローメーターと喘息日誌の使い方は? *jmedmook10* いきなり名医! その咳と喘鳴、本当に喘息ですか? 医事新報社 2010 p171-179
- 3) 小山信一郎: II. 症状編. 4. 咳・痰・血痰. 60歳からの健康づくり 監修 植木彰, p44-45, 2010 財団法人 地方公務員等ライフプラン協会
- 4) 小山信一郎: III. 疾患編. 9. 呼吸器疾患. 60歳からの健康づくり 監修 植木彰, p110-115, 2010 財団法人 地方公務員等ライフプラン協会
- 5) Yoh Dobashi, Shinichiro Koyama, Yoshihiko Kanai, Kenji Tetsuka. Kinase-driven pathways of EGFR in lung carcinoma: perspectives on targeting therapy. *Frontiers in Bioscience* 16: 1714-1732, 2011

### 学会・地方会・研究会

- 1) 白石 守, 渡辺恭孝, 三輪千尋, 工藤史明, 野首光弘, 土橋 洋, 遠藤俊輔, 小山信一郎。EGFR 遺伝子変異陽性を認めた肺扁平上皮癌4例の検討。第51回日本呼吸器学会学術講演会 2011/04/22-24



東京

- 2) 小山信一郎 第9回自治医科大学シンポジウム 運動(過換気)と喘息について 2010/09/04、栃木
- 3) 柴野智毅、手塚憲志、金井義彦、工藤史明、白石守、三輪千尋、渡辺恭孝、小山信一郎、遠藤俊輔。縦隔型肺底区動脈(A8+10)を認めた左上葉肺癌の1切除例。第134回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 2010/09/11 東京
- 4) 三輪千尋、高橋基子、白石守、渡辺恭孝、小山信一郎。EGFR 遺伝子変異陽性・脳転移症例でのEGFR-TKI投与例。埼玉肺癌分子標的薬治療Academia 2010/12/09 さいたま
- 5) 工藤 史明、松本 建志、渡辺恭孝、小山信一郎。Gefitinib から Erlotinib に変更して症状が改善した癌性髄膜炎の一例。第2回埼玉肺癌セミナー。2011/02/03 さいたま
- 6) 新川尚子、三輪千尋、野村基子、白石守、渡辺恭孝、小山信一郎。原発が不明であった肺腺癌、気管支転移の一例。第193回日本呼吸器学会関東地方会 2011/02/19 東京
- 7) 白石守、渡辺恭孝、野村基子、三輪千尋、小山信一郎。両側気胸を発症した特発性上葉限局型肺線維症(網谷病)が疑われた一例。第13回関東COPD研究会 2011/02/25 さいたま

#### 研究会、講演会等

- 1) 小山信一郎 日医生涯教育協力講座 埼玉県における昨年の新型インフルエンザに対する取り組みについて 1. さいたま市における取り組み 2010/10/16 さいたま
- 2) 小山信一郎。市民公開講座 インフルエンザ流行に備えて 2010/11/13 さいたま
- 3) 小山信一郎。平成22年度肺癌検診委員会症例検討会 2010/11/18 さいたま
- 4) 小山信一郎。今年度の新型インフルエンザ対策について 2010/11/19 東松山
- 5) 小山信一郎。埼玉県支払基金学術講演会 呼吸器疾患治療の現況 2010/11/20 さいたま
- 6) 小山信一郎。自治医科大学附属さいたま医療センター平成22年度第2回公開講座 インフルエンザと肺炎の予防 2010/12/04 さいたま
- 7) 小山信一郎。さいたま市消防局衛生健康講話 インフルエンザと肺炎の対策 2011/01/18 さいたま
- 8) 小山信一郎。Asthma Symposium 2011 さいたま パネリスト
- 9) 小山信一郎。喘息長期管理の秘訣。成人喘息カン

ファレンス。2011/02/24 さいたま

- 10) 小山信一郎。浦和成人喘息カンファレンス。2011/03/02 さいたま

#### ■ 血液科

2010年4月から2011年3月の間に発表した研究成果をご紹介します。ほとんどが地道な臨床研究ですが、日常診療に役立つようなエビデンスを少しずつ発信できているのではないかと思います。また、2010年度はBlood誌(IF=10.56)に1編、Leukemia誌(IF=8.30)に2編、Cancer Research誌(IF=7.54)に1編と、比較的IF(impact factor)の高い雑誌に研究成果を発表することができました。IFは単にその雑誌に掲載された論文の平均的な引用回数を表すだけであり、必ずしも研究の重要性の尺度として適切であるとは限りません。また、もし引用回数を尺度に用いるのであれば、現在は個々の論文の引用回数が簡単にわかりますので、雑誌そのもののIFの意義は薄れているように思います。しかし、研究者の投稿雑誌の選択あるいは査読者の判定が雑誌のIFを基準にして行われているという現実がある以上、IFの高い雑誌に質の高い論文が掲載され、また、IFの高い雑誌の論文が信頼性の高い研究と判断されてしまう「傾向」は否定することはできません。そのため、各雑誌はIFを高めるための努力を惜しまず、例えばInternational Journal of Hematology(IJH)の編集会議でも、会議時間の大半は「いかにしてIJHのIFを高めるか？」に割かれます。しかし、臨床系の論文がIFの高い雑誌に掲載されるということは非常に難しいのが現状です。私たちの研究の中でも臨床現場における重要性和雑誌のIFとは必ずしも相関しません。ですので、少なくとも臨床系の研究においては、IFが高い雑誌に掲載されれば無邪気に喜び、そうでなければ「いむばくとふあくたあ？なにそれ？」と嘯いていればよいのだと思います。愛すべき論文たちはIFの低い雑誌の中にもたくさん存在します(特に日本人患者さんの診療に役立つ研究成果など)。

さて、以下に紹介する21編の英文論文の内、当科が研究の中心となっているのは14編ですが、内訳は移植片対宿主病(GVHD)制御関連が5編、感染症関連が3編、臨床決断分析が2編、薬物相互作用関連が1編、基礎研究(細胞傷害性T細胞のレパトア解析)が1編、自家造血幹細胞移植後のT細胞動態解析が1編、症例報告が1編です。この中から、いくつかの論文を取り上げて紹介します。

4の論文は慢性骨髄性白血病(CML)の画期的治療薬であるイマチニブが同種造血幹細胞移植後の慢

性GVHDの発症を抑制するかどうかを多施設共同で後方視的に調査したものです。イマチニブはチロシキナーゼであるABLを特異的に阻害することによってCMLの腫瘍細胞を抑制しようという薬剤ですが、実際には他のいくつかのチロシキナーゼも阻害します。慢性GVHDの皮膚病変では線維化が亢進していることが知られていますが、その線維化にはTGF $\beta$ やPDGFRなどが関与しており、イマチニブはこれらの活性を抑制します。実際、皮膚の慢性GVHDと類似した病態である全身性強皮症をイマチニブで治療しようという臨床試験もStanford大学などで進行中です。そこで、CMLやフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病(ALL)に対して同種造血幹細胞移植を行った後に、再発予防などの目的でイマチニブを投与された群と投与されていない群を比較したところ、イマチニブ投与群で慢性GVHDの発症頻度、重症度が有意に低いことがわかりました。多変量解析によって様々な背景因子の影響を補正しても、やはりイマチニブの慢性GVHD効果は有意でした。今後は前向き試験でその有効性を確認したいと思います。

13は同じくイマチニブに関連したものです。CMLに対するイマチニブの投与は長期にわたりますが、高価な薬剤であるため医療費の負担が問題になっていました。一方、イマチニブの代謝にはCYP3A4が関与することが知られています。そこで、通常は同時に服用しないように指導するグレープフルーツジュースをあえて同時に服用していただくことによってイマチニブの血中濃度を高め、薬剤の必要量を減少させて医療費を軽減しようという前向き試験です。仮に血中濃度-時間曲線下面積が2倍になったとしても安全な設定で行いましたが、グレープフルーツジュースの内服の有無によってイマチニブの血中濃度に差は認められず、医療費抑制効果は認められませんでした。しかしこの結果は、グレープフルーツが大好きでたまらないけどイマチニブを内服しているがために涙をのんで我慢しているという方に吉報となるかもしれません(そんな人いるの??)。

10は造血器疾患患者の感染症発症の重要な危険因子である好中球減少について、D-indexという新たな指標の有用性を検討したものです。通常、好中球減少の程度はある値(例えば500/ $\mu$ L)を下回る期間の長さで評価します。しかし、実際には、その期間が同じであったとしても、好中球減少の「深さ」の違いで感染症発症のリスクは異なります。そこで、好中球数の時間的推移をプロットした曲線と、好中球減少症の基準値である好中球数500/ $\mu$ Lの水平ラインとの間の面積を算出することにより、好中球減少の「深さ」と持続期間の両者を反映させることができるようにした指標

がD-indexおよび累積D-index(c-D-index)です。この指標が造血幹細胞移植後の早期の肺感染症の予測に役立つかどうかを調べたところ、確かに肺感染症合併群でc-D-indexは有意に高く、受信者動作特性曲線(ROC)解析ではc-D-indexの閾値を5500とすれば97.4%の陰性適中率が得られることがわかりました。ただし、造血幹細胞移植の場合は好中球数の低下、回復が急峻であり、かつ一様に100/ $\mu$ L未満の高度な好中球減少を呈するため、単純な好中球減少期間での評価と比較して肺感染症の予測能における有意な違いは認められませんでした。

14は臨床決断分析という手法を用いた論文です。メタアナリシスと同様、データの二次利用を行う解析手法のひとつで、医療の分野では医療経済の解析などにしばしば用いられています。臨床決断分析では、まず決断樹を作成します。治療選択などの分岐点に立たされている場面での決断から枝分かれし、その後にある確率に沿ってさらに様々な結果へと枝分かれしていきます。そして、最終的に得られた結果に対して、その望ましさに点数をつけます。例えば「副作用なく根治する」が100、「根治せず死亡」が0であれば、「QOLの低下した根治」は0と100の中間の値になります。次に、最終的な結果の点数(期待効用)と、それぞれの枝分かれの確率(移行確率)を掛け合わせて合計することによって、どの決断が最も高い期待値が得られるかを比較します。途中の移行確率や期待効用の設定によって選択肢の優劣が大きく変わる可能性があるため、これらの値を変動させることによって選択肢の優劣がどのように変化するかを評価し(感度分析)、その選択が強固なものであるかどうかを判断します。この論文では、ALLの第一寛解期の患者さんに対して、HLA型が適合した血縁者がいる場合に、すぐに造血幹細胞移植を行うべきか、そのまま化学療法で経過を見て再発した場合に移植を行うべきかの決断を比較したものです。成人白血病研究グループ、日本造血細胞移植学会のデータベースを用いて解析したところ、移植後に生じるかもしれないQOLの低下を加味しても第一寛解の移植が勧められるという結論が得られました。

以上は全て臨床研究ですが、研究室における移植免疫、腫瘍免疫の基礎研究もようやく軌道に乗り、第一号の論文を公表することができました。8の論文は難治性の造血器腫瘍である成人T細胞白血病(ATL)に関連した研究です。ATLは同種造血幹細胞移植によって根治できる可能性が示されていますが、移植後にATLの原因ウイルスであるヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-I)の転写活性化因子Taxを認識するドナー由来の細胞傷害性T細胞(CTL)が患者体

内でのウイルス感染細胞の除去に重要な役割を果たしていることが明らかとなっています。そこで、HLA-テトラマー法を用いてTax抗原特異的CTLを検出、単離し、single-cell RT-PCRによって個々の細胞のT細胞受容体レパトアの解析を行ったところ、移植後のTax特異的CTLのT細胞受容体レパトアの多様性は著しく制限されており、特徴的なアミノ酸配列が、異なる患者間で、あるいは同一患者の移植前後で保存されていることが判明しました。この特徴的なアミノ酸配列を有するCTLは患者のHTLV-I感染細胞に対して強力な細胞傷害活性を示しました。以上のことから、ATL患者のTax特異的CTLは特徴的なT細胞受容体再構成パターンを有し、HTLV-I感染細胞に対して強い免疫応答を示すことが示唆されました。

4月からは新たに2名が大学院に進学する予定です。臨床系の大学院として、基礎的な研究も臨床研究も、近未来の診療に役立つテーマで発展させていきたいと思っています。また、下記の論文のいくつかは他科との共同発表です。今後も様々な診療科と共同研究を進めていきたいと思っていますので、引き続きご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。なお、フリーウェアの統計解析ソフトであるRおよびRコマンドを基盤として、無料でかつ医療分野で頻用する統計解析をマウス操作だけで簡単に行うことができるソフトウェアを開発し、ホームページ上で公開しています。競合イベントや時間依存性変数を扱う生存解析、ROC解析、メタアナリシス、必要サンプル数や検出力の計算なども簡単に実施できます。関心のある方は以下のページからダウンロードしてください。

<http://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/>

#### 英文論文

- 1) Kumi Oshima, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Yoshinobu Kanda. Target blood concentrations of cyclosporine and tacrolimus in randomized controlled trials for the prevention of acute GVHD after hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 45:781-782,2010
- 2) Shun-ichi Kimura, Kumi Oshima, Shinya Okuda, Ken Sato, Miki Sato, Kiriko Terasako, Hideki Nakasone, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Yukie Tanaka, Aki Tanihara, Takakazu Higuchi, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Pharmacokinetics of cyclosporine during the switch from continuous intravenous infusion to oral administration after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 45:1088-1094,2010
- 3) Takashi Kuramoto, Tohru Daikoku, Yoshihiro Yoshida, Masaya Takemoto, Kumi Oshima, Yoshito Eizuru, Yoshinobu Kanda, Toshio Miyawaki, and Kimiyasu Shiraki. Novel anti-cytomegalovirus activity of immunosuppressant mizoribine and its synergism with ganciclovir. *Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics* 333:816-821,2010
- 4) Hideki Nakasone, Yoshinobu Kanda, Hiroataka Takasaki, Chiaki Nakaseko, Toru Sakura, Shin Fujisawa, Akira Yokota, Shingo Yano, Kensuke Usuki, Atsuo Maruta, Daijiro Abe, Takumi Hoshino, Satoshi Takahashi, Heiwa Kanamori, Shinichiro Okamoto on behalf of the Kanto Study Group for Cell Therapy. Prophylactic impact of tyrosine kinase inhibitor administration after allogeneic stem cell transplantation on the incidence and severity of chronic graft versus host disease in patients with Philadelphia chromosome-positive leukemia. *Leukemia* 24:1236-1239,2010
- 5) Kiriko Terasako, Ken Sato, Miki Sato, Shun-ichi Kimura, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Yukie Tanaka, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Aki Tanihara, Takakazu Higuchi, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. The effect of different ATG preparations on immune recovery after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for severe aplastic anemia. *Hematology* 15:165-169,2010
- 6) Koji Nagafuji, Keitaro Matsuo, Takanori Teshima, Shin-ichiro Mori, Hisashi Sakamaki, Michihiro Hidaka, Hiroyasu Ogawa, Yoshihisa Koderu, Yoshinobu Kanda, Atsuo Maruta, Takehiko Mori, Fumiaki Yoshida, Tatsuo Ichinohe, Masanobu Kasai, Yoshifusa Takatsuka, Kohmei Kubo, Hiroshi Sao, Yoshiko Atsuta, Ritsuro Suzuki, Takashi Yoshida, Masahiro Tsuchida, Mine Harada. Peripheral blood stem cell versus bone marrow transplantation from HLA-identical sibling donors in patients with leukemia: a propensity score-based comparison from the Japan Society for Hematopoietic Stem Cell Transplantation registry. *International Journal of Hematology* 91:855-864,2010
- 7) Yoshinobu Kanda, Takuya Yamashita, Takehiko



- Mori, Toshiro Ito, Kenji Tajika, Shinichiro Mori, Toru Sakura, Masamichi Hara, Kinuko Mitani, Mineo Kurokawa, Koichi Akashi, and Mine Harada. A randomized controlled trial of plasma real-time PCR and antigenemia assay for monitoring cytomegalovirus infection after unrelated bone marrow transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 45:1325-1332,2010
- 8) Yukie Tanaka, Hideki Nakasone, Rie Yamazaki, Ken Sato, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Kumi Oshima, Aki Tanihara, Junji Nishida, Toshiaki Yoshikawa, Tetsuya Nakatsura, Haruo Sugiyama, Yoshinobu Kanda. Single-cell analysis of the T cell receptor repertoire of HLA-A\*2402 restricted HTLV-I Tax-specific cytotoxic T cells in adult T-cell leukemia/lymphoma patients treated with allogeneic stem cell transplantation. *Cancer Research* 70:6181-6192,2010
- 9) Nobu Akiyama, Keisuke Miyazawa, Yoshinobu Kanda, Kaoru Tohyamad, Mitsuhiro Omine, Kinuko Mitani, Kazuma Ohyashiki. Multicenter phase II trial of vitamin K2 monotherapy and vitamin K2 plus 1 $\alpha$ -hydroxyvitamin D3 combination therapy for low-risk myelodysplastic syndromes. *Leukemia Research* 34:1151-1157,2010
- 10) Shun-ichi Kimura, Kumi Oshima, Ken Sato, Miki Sato, Kiriko Terasako, Hideki Nakasone, Misato Kikuchi, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Yukie Tanaka, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Retrospective Evaluation of the area over the neutrophil curve index to predict early infections in hematopoietic stem cell transplant recipients. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 16:1355-1361,2010
- 11) Yoko Ishida, Kiriko Terasako, Kumi Oshima, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Misato Kikuchi, Shun-ichi Kimura, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Dasatinib followed by second allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for relapse of Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia after the first transplantation. *International Journal of Hematology* 92:542-546,2010
- 12) Kumi Oshima, Tsuyoshi Takahashi, Takehiko Mori, Tomohiro Matsuyama, Kensuke Usuki, Yuki Asano-Mori, Fumio Nakahara, Shinichiro Okamoto, Mineo Kurokawa, Yoshinobu Kanda. One-year low-dose valacyclovir as prophylaxis for varicella-zoster virus reactivation after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. A prospective study of the Japan Hematology and Oncology Clinical Study Group. *Transplant Infectious Disease* 12:421-427,2010
- 13) Shun-ichi Kimura, Shinichi Kako, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Junji Nishida, Takuro Watanabe, Yoshinobu Kanda. Effect of Grapefruit Juice on Imatinib Mesylate Pharmacokinetics: Can Grapefruit Juice Decrease the Cost of Treatment for Chronic Myelogenous Leukemia? *Leukemia Research* 35:e11-12,2011
- 14) Shinichi Kako, Satoshi Morita, Hisashi Sakamaki, Hiroyasu Ogawa, Takahiro Fukuda, Satoshi Takahashi, Heiwa Kanamori, Makoto Onizuka, Koji Iwato, Ritsuro Suzuki, Yoshiko Atsuta, Taiichi Kyo, Toru Sakura, Itsuro Jinnai, Jin Takeuchi, Yasushi Miyazaki, Shuichi Miyawaki, Kazunori Ohnishi, Tomoki Naoe, Yoshinobu Kanda. A decision analysis of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for adult patients with Philadelphia chromosome-negative acute lymphoblastic leukemia in first remission who have an HLA-matched sibling donor. *Leukemia* 25:259-265,2011
- 15) Minoru Yoshida, Nobu Akiyama, Hiroyuki Fujita, Katsuhiko Miura, Jun-ichi Miyatake, Hiroshi Handa, Katsuyuki Kito, Masatomo Takahashi, Kazuyuki Shigeno, Yoshinobu Kanda, Naoko Hatsumi, Shigeki Ohtake, Hisashi Sakamaki, Kazunori Ohnishi, Shuichi Miyawaki, Ryuzo Ohno and Tomoki Naoe for the Japan Adult Leukemia Study Group. Analysis of bacteremia/fungemia and pneumonia accompanying acute myelogenous leukemia from 1987 to 2001 in the Japan Adult Leukemia Study Group. *International Journal of Hematology* 93:66-73,2011
- 16) Akiyoshi Takami, J. Luis Espinoza, Makoto Onizuka, Ken Ishiyama, Takakazu Kawase, Yoshinobu Kanda, Hiroshi Sao, Hideki Akiyama, Koichi Miyamura, Shinichiro Okamoto, Shigeki

- Ohtake, Takahiro Fukuda, Yasuo Morishima, Yoshihisa Kodera, and Shinji Nakao, for the Japan Marrow Donor Program. A single nucleotide polymorphism of the Fc $\gamma$  receptor type IIIA gene in the recipient predicts transplant outcomes after HLA-fully-matched unrelated bone marrow transplantation for myeloid malignancies. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 17) Yoshinobu Kanda, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Misato Kikuchi, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Kumi Oshima. Risks and benefits of ovarian shielding in female patients undergoing total body irradiation: A decision analysis. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 18) Fusako Waki, Kazuhiro Masuoka, Takahiro Fukuda, Yoshinobu Kanda, Mika Nakamae, Kimikazu Yakushijin, Katsuhiko Togami, Kaichi Nishiwaki, Yasunori Ueda, Fumio Kawano, Masaharu Kasai, Koji Nagafuji, Maki Hagihara, Kazuo Hatanaka, Masafumi Taniwaki, Yoshinobu Maeda, Naoki Shirafuji, Takehiko Mori, Ate Utsunomiya, Tetsuya Eto, Hitoshi Nakagawa, Makoto Murata, Toshiki Uchida, Hiroatsu Iida, Kazuaki Yakushiji, Takuya Yamashita, Atsushi Wake, Satoshi Takahashi, Yoichi Takaue, Shuichi Taniguchi. Feasibility of reduced-intensity cord blood transplantation as salvage therapy for graft failure: results of a nationwide survey of 80 adult patients. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* (in press)
- 19) Hidenori Wada, Kiriko Terasako, Yurika Kamiya, Miki Sato, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Junji Nishida, Masato Moriguchi, Chihiro Terai, Yoshinobu Kanda. Immune recovery after autologous peripheral blood stem cell transplantation without in vitro graft manipulation for refractory systemic lupus erythematosus. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 20) Akira Yokota, Shinichi Ozawa, Masanori Tsuji, Hideki Akiyama, Kumi Oshima, Yoshinobu Kanda, Satoshi Takahashi, Takehiko Mori, Chiaki Nakaseko, Masahiro Onoda, Kenji Kishi, Noriko Toki, Nobuyuki Aotsuka, Heiwa Kanamori, Atsuo Maruta, Hisashi Sakamaki, and Shinichiro Okamoto for the Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Secondary solid tumors and posttransplant lymphoproliferative disorders after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in Japan. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 21) Hideki Nakasone, Phan Binh, Rie Yamazaki, Yukie Tanaka, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Shinichi Kako, Shinya Okuda, Kumi Oshima, Aki Tanihara, Junji, Nishida, Yasunori Abe, Yoshinobu Kanda. Association between serum high-molecular-weight adiponectin level and the severity of chronic graft-versus-host disease in allogeneic stem cell transplantation recipients. *Blood* (in press)

## 英文著書 (分担)

- 1) Yoshinobu Kanda. Hematopoietic stem cell transplantation. *Encyclopedia of Behavioral Medicine* Springer

## 和文総説

- 1) 神田善伸 日本内科学会生涯教育講演会 悪性リンパ腫の最新の治療と展望 日本内科学会雑誌 99: 542-547, 2010
- 2) 神田善伸 白血病・リンパ腫・骨髄腫の現地診療 骨髄腫に対する新たな治療戦略 —新規薬剤と移植をどう組み合わせるか— *Medical Practice* 27:331-335, 2010
- 3) 神田善伸 初診外来における初期診療 血算の異常 診断と治療 98 (Suppl.) : 442-448, 2010
- 4) 神田善伸 急性骨髄性白血病 造血細胞移植ガイドライン 日本造血細胞移植学会
- 5) 神田善伸 血液疾患に対するステロイドの使い方 日本医師会雑誌 138: 2076-2077, 2010
- 6) 神田善伸 多発性骨髄腫に対する造血幹細胞移植 血液・腫瘍科 60: 659-666, 2010
- 7) 神田善伸 化学療法と妊孕性 血液・腫瘍科 60: 744-749, 2010
- 8) 神田善伸 分子標的時代の白血病に対する造血幹細胞移植 *Medical Science Digest* 36: 880-883, 2010
- 9) 神田善伸 高リスク成人急性リンパ性白血病に対する造血幹細胞移植 *Bio Clinica* 25: 597-601, 2010
- 10) 賀古真一、神田善伸 Clofarabine ~骨髄異形成



- 症候群の治療～ 血液疾患における分子標的治療～ドラッグラグ解消に向けて～ **血液フロンティア** 20 (S-1) : 1781-1789, 2010
- 11) 神田善伸 教育講演 急性リンパ性白血病に対する造血幹細胞移植 **臨床血液** 51: 1564-1572, 2010
  - 12) 神田善伸 慢性骨髄増殖性腫瘍に対する同種造血幹細胞移植 **血液・腫瘍科** 61: 191-198, 2010
  - 13) 神田善伸 同種造血幹細胞移植後のフォローアップ **Medicina** 47: 2814-2190, 2010
  - 14) 神田善伸 悪性リンパ腫 up-to-date 同種造血幹細胞移植 (フル移植 & ミニ移植) の有効性と適応 **医学のあゆみ** 235: 479-485, 2010
  - 15) 神田善伸 正常核型急性骨髄性白血病の治療戦略: 移植 **血液フロンティア** 20: 1881-1892, 2010
  - 16) 神田善伸 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫診療のBreakthrough 特集にあたって **Pharma Medica** 28: 7-7.2010
  - 17) 仲宗根秀樹、神田善伸 白血病に対する同種骨髄移植 vs. 同種末梢血幹細胞移植 **血液・腫瘍科** 61: 705-713, 2010
  - 18) 神田善伸 造血幹細胞移植時の発熱性好中球減少症の治療 田村和夫編 **発熱性好中球減少症の予防と対策** 大阪: 医薬ジャーナル社 2010年: P146-152
  - 19) 神田善伸 造血幹細胞移植における臨床検査 臨床検査 Yearbook 2010 **血液検査編** 東京: 臨床病理刊行会 2010年 P76-83
  - 20) 大島久美、神田善伸 免疫抑制薬 直江知樹、小澤敬也、中尾眞二編 **血液疾患 最新の治療 2011-2013** 東京: 南江堂 2010年 P76-79
  - 21) 神田善伸 侵襲性肺アスペルギルス症の初期治療とサルベージ治療 河野茂編 **ガイドラインサポートブック IDSA GL: 真菌症治療の最近の update** 大阪: 医薬ジャーナル社 2010年 P191-197
  - 22) 神田善伸 原理と種類について 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P2-5
  - 23) 神田善伸 移植の基本的な流れと安全性 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P6-9
  - 24) 賀古真一 移植前の評価 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P16-19
  - 25) 大島久美 末梢血幹細胞と骨髄の比較と実際の採取手順 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P50-55
  - 26) 大島久美 造血幹細胞の処理、凍結保存、輸注 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P56-61
  - 27) 仲宗根秀樹 移植前処置の選択と毒性の評価 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P62-67
  - 28) 神田善伸 感染症の予防と治療 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P84-89
  - 29) 神田善伸 急性骨髄性白血病 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P106-109
  - 30) 神田善伸 急性前骨髄球性白血病 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P110-113
  - 31) 賀古真一 急性リンパ性白血病 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P114-117
  - 32) 寺迫桐子 骨髄異形成症候群 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P118-121
  - 33) 木村俊一 慢性骨髄球性白血病 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P122-125
  - 34) 奥田慎也 多発性骨髄腫 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P148-151
  - 35) 佐藤美樹 再生不良性貧血 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P152-155
  - 36) 神田善伸 不妊対策 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P206-209
  - 37) 神田善伸 入院日数と医療費 神田善伸編 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 東京: 南江堂 2011年 P230-233
  - 38) 木村俊一、神田善伸 侵襲性アスペルギルス症の治療は? 西條長宏監修 **EBM 癌化学療法一分**

- 子標的治療法2011～2012 東京：中外医学社  
2010年 P521-526
- 39) 神田善伸 造血幹細胞移植後の不妊を防ぐ方法はあるか？ 西條長宏監修 **EBM 癌化学療法—分子標的治療法2011～2012** 東京：中外医学社  
2010年 P558-562
- 40) 神田善伸 同種造血幹細胞移植後のウイルス感染のモニタリングや治療をどうしよう？ 押味和夫監修、木崎昌弘、松村到編 **造血器腫瘍診療：これは困った、どうしよう！** 東京：中外医学社  
2010年 P324-329
- 41) 神田善伸 36歳男性、AML。同種造血幹細胞移植後6ヶ月で再発した。さてどうしよう？ 押味和夫監修、木崎昌弘、松村到編 **造血器腫瘍診療：これは困った、どうしよう！** 東京：中外医学社  
2010年 P330-334
- 42) 神田善伸 ホジキンリンパ腫 押味和夫編 **みんなに役立つ悪性リンパ腫の基礎と臨床 改訂版** 大阪：医薬ジャーナル社  
2011年 P356-364
- 43) 宮脇修一、秋山暢、神田善伸、木村文彦、柵木信男 白血病治療における若手血液内科医の育成 **Pharma Medica** 28: 113-118, 2010
- 44) 神田善伸、de la Camara Rafael、森毅彦、中前博久、賀古真一、仲宗根秀樹、西本光孝 Risk factor and prophylaxis of invasive fungal disease on allo-SCT. 深在性真菌症～ **SFI Forum** ～ 6: 63-71, 2010
- 45) 賀古真一 第一寛解期成人急性リンパ性白血病に対するHLA一致血縁ドナーからの同種移植の妥当性を検討する臨床決断分析 **臨床血液** 51: 464-470, 2010
- 46) 仲宗根秀樹、臼杵憲祐 CBF 白血病に対する自家移植 **血液・腫瘍科** 60: 249-254, 2010
- 47) 仲宗根秀樹、神田善伸 寛解導入時のdaunorubicin増量は急性骨髄性白血病の予後の改善につながるか **内科** 106: 155-157, 2010
- 48) 仲宗根秀樹 血液の病気① 形の異常～栄養バランスが大事 **学校保健ニュース高校版 付録冊子** 4月号(第1512号) P10-11 2010年
- 49) 仲宗根秀樹 血液の病気② 自己免疫による異常 **学校保健ニュース高校版 付録冊子** 5月号(第1515号) P10-11 2010年
- 50) 仲宗根秀樹 血液の病気③ 血液腫瘍 **学校保健ニュース高校版 付録冊子** 6月号(第1518号) P10-11 2010年
- 51) 仲宗根秀樹 血液の病気④ 骨髄(造血幹細胞)移植 **学校保健ニュース高校版 付録冊子** 7月号(第1521号) P10-11 2010年
- 52) 仲宗根秀樹 **学校保健ニュース中学版 付録冊子** 2月号(第1541号) P4-5 2011年

#### 編集、監修など

- 1) 神田善伸 ～チーム医療で行なう～ **造血幹細胞移植プラクティカルガイド** 南江堂 2011年
- 2) 神田善伸 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫診療のBreakthrough **Pharma Medica** メディカルレビュー社 2010年

#### 学会招待講演など

- 1) 神田善伸 Febrile neutropenia (FN) 治療の新时代へ ～国内外のFN ガイドラインにみる細菌および真菌に対する新たな治療戦略～ FN治療薬の選択 **第58回日本化学療法学会総会 イブニングセミナー** 長崎 2010年6月3日
- 2) 神田善伸 第3回日本血液学会監修研修医(初期・後期)のための血液学セミナー 全体ケーススタディ 移植 大津 2010年7月9日～11日
- 3) 神田善伸 白血病 **日本臨床腫瘍学会第16回教育セミナーAセッション** 横浜 2010年8月22日
- 4) 神田善伸 IDSA ガイドライン Update ～血液疾患に関連する各種IDSA ガイドラインを吟味する～ **第72回日本血液学会総会 コーポレートセミナー** 横浜 2010年9月24日
- 5) 神田善伸 急性リンパ性白血病に対する造血幹細胞移植 **第72回日本血液学会総会 教育講演** 横浜 2010年9月26日
- 6) 大島久美 血液疾患患者における真菌感染症治療 **第59回日本感染症学会東日本地方会学術集会／第57回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 教育セミナー** 2010年10月21日 東京
- 7) 神田善伸 白血病 **日本臨床腫瘍学会第17回教育セミナーAセッション** 横浜 2011年3月6日
- 8) 神田善伸 造血幹細胞移植におけるシクロスポリンの使い方 **第33回日本造血細胞移植学会総会 ランチョンセミナー** 松山 2011年3月9日
- 9) 神田善伸 移植後感染症の克服に向けて サイトメガロウイルス感染症 **第33回日本造血細胞移植学会総会 シンポジウム** 松山 2011年3月10日

#### 学会一般演題

- 1) Kumi Oshima, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shunichi Kimura, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Clinical course of patients with MDS or hypoplastic/secondary for whom

- allogeneic HSCT was planned as an initial therapy. **第72回日本血液学会総会** 口演 横浜 2010年9月25日
- 2) Shun-ichi Kimura, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Ken Sato, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Junji, Nishida, Yoshinobu Kanda. Retrospective evaluation of a novel neutropenia index to predict early infection in HSCT recipients. **第72回日本血液学会総会** 口演 横浜 2010年9月24日
- 3) Shinichi Kako, Satoshi Morita, Hisashi Sakamaki, Hiroatsu Iida, Mineo Kurokawa, Koichi Miyamura, Heiwa Kanamori, Masamichi Hara, Naoki Kobayashi, Yasuo Morishima, Keisei Kawa, Taiichi Kyo, Toru Sakura, Itsuro Jinnai, Jin Takeuchi, Yasushi Miyazaki, Shuichi Miyawaki, Kazunori Ohnishi, Tomoki Naoe, Yoshinobu Kanda. Decision analysis of HLA-matched unrelated stem cell transplantation for ALL in first remission. **第72回日本血液学会総会** 口演 横浜 2010年9月25日
- 4) Miki Sato, Kumi Oshima, Ken Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Takakazu Higuchi, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Prediction of infectious events by CRP value before undergoing chemotherapy for non-Hodgkin Lymphoma. **第72回日本血液学会総会** 口演 横浜 2010年9月24日
- 5) Kiriko Terasako, Kumi Oshima, Ken Sato, Miki Sato, Shun-ichi Kimura, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Takakazu Higuchi, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Ovarian function after hematopoietic cell transplantation: The effect of ovarian irradiation dose. **第72回日本血液学会総会** 口演 横浜 2010年9月24日
- 6) Hideki Nakasone, Yukie Tanaka, Rie Yamazaki, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Kumi Oshima, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Single-cell RT-PCR of TCR- $\beta$  repertoire of CMV-specific CTLs in donor-patient pairs undergoing HSCT. **第72回日本血液学会総会** 口演 横浜 2010年9月25日
- 7) Shinichi Kako, Satoshi Morita, Hisashi Sakamaki, Hiroatsu Iida, Mineo Kurokawa, Koichi Miyamura, Heiwa Kanamori, Masamichi Hara, Naoki Kobayashi, Yasuo Morishima, Keisei Kawa, Taiichi Kyo, Toru Sakura, Itsuro Jinnai, Jin Takeuchi, Yasushi Miyazaki, Shuichi Miyawaki, Kazunori Ohnishi, Tomoki Naoe, Yoshinobu Kanda. A Decision Analysis of Unrelated Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Adult Patients with Philadelphia Chromosome-negative Acute Lymphoblastic Leukemia in First Remission Who Lack an HLA-matched Sibling. **52th Annual Meeting of American Society of Hematology** Poster presentation December 5<sup>th</sup>, 2010, Orland
- 8) Kumi Oshima, Yoshinobu Kanda, Yasuhito Nanya, Masatsugu Tanaka, Chiaki Nakaseko, Shingo Yano, Shin Fujisawa, Hiroyuki Fujita, Satoshi Takahashi, Heiwa Kanamori, Shinichiro Okamoto. Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Patients with Mildly impaired Renal Function. **2011 BMT Tandem Meetings** Poster presentation Honolulu February 2011
- 9) Hideki Nakasone, Phan Nguyen Thanh Binh, Rie Yamazaki, Yukie Tanaka, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Shinichi Kako, Shinya Okuda, Kumi Oshima, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yasunori Abe and Yoshinobu Kanda. Association between serum high-molecular-weight adiponectin level and the severity of chronic graft-versus-host disease in allogeneic stem cell transplantation recipients **2011 BMT Tandem Meetings** Poster presentation Honolulu Hawaii February 2011
- 10) 菊地美里、大島久美、和田英則、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、木村俊一、仲宗根秀樹、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、西田淳二、神田善伸 HLA 不適合血縁者間造血幹細胞移植における移植前リンパ球クロスマッチの意義 **第33回日本造血細胞移植学会総会** ポスター 愛媛 2011年3月10日
- 11) 蘆澤正弘、大島久美、和田英則、坂本佳奈、佐藤美樹、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、西田淳二、神田善伸 同種造血幹細胞移植後早期の高ビリルビン血症例の予後解析：ALP/T-Bil 比の重要



性の提唱 第33回日本造血細胞移植学会総会  
ワークショップ 松山 2011年3月9日

- 12) 坂本佳奈、仲宗根秀樹、和田英則、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、菊地美里、木村俊一、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、大島久美、西田淳二、神田善伸 サイトメガロウイルス (CMV) 抗原血症に基づく陽性細胞数20個を閾値とした抗ウイルス先制治療の妥当性の検討 第33回日本造血細胞移植学会総会 ポスター 愛媛 2011年3月9日
- 13) 木村俊一、和田英則、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、菊地美里、仲宗根秀樹、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、大島久美、西田淳二、神田善伸 L-Index: 造血幹細胞移植後のリンパ球減少の程度と持続期間の両者を同時に評価する新しい指標の提案 第33回造血細胞移植学会総会ワークショップ 愛媛 2011年3月9日
- 14) 大島久美、神田善伸、南谷泰仁、田中正嗣、中世古知昭、矢野真吾、藤澤信、藤田浩之、高橋聡、金森平和、岡本真一郎 軽度腎障害のある患者に対する同種造血幹細胞移植についての後方視的検討 第33回日本造血細胞移植学会総会ワークショップ 松山 2011年3月10日
- 15) 賀古真一、森田智視、坂巻 壽、飯田浩充、黒川峰夫、宮村耕一、金森平和、原 雅道、小林直樹、森島泰雄、河 敬世、許 泰一、佐倉 徹、陣内逸郎、竹内 仁、宮崎泰司、宮脇修一、大西一功、直江知樹、神田善伸 フィラデルフィア染色体陰性成人急性リンパ性白血病に対するHLA一致非血縁ドナーからの第一寛解期における同種造血幹細胞移植の妥当性を検討する臨床決断分析 第33回日本造血細胞移植学会総会ワークショップ 松山 2011年3月9日
- 16) 仲宗根秀樹、山崎理絵、田中ゆきえ、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、奥田慎也、賀古真一、大島久美、西田淳二、神田善伸 血清高分子量アディポネクチン濃度と慢性移植片対宿主病の重症度との関連 第33回日本造血細胞移植学会総会ワークショップ 松山 2011年3月9日

## ■ 病理部

### 【論文】

- 1) 加倉井真樹, 米田耕造, 飯田絵理, 平塚裕一郎, 山田朋子, 西田淳二, 山田茂樹, 窪田泰夫, 出光俊郎. Sweet 病様紅斑を呈した組織球性壊死性リンパ節炎: 皮膚科の臨床, 2010, 52: 849-853.
- 2) 宗雪年孝, 菅原齊, 山田茂樹. 冠動脈周囲膿瘍部に急性冠動脈閉塞を来たし死亡した糖尿病性腎不全の1剖検症例: 診断病理, 2010, 27: 240-243.
- 3) 吉田佳織, 小佐野仁志, 河瑠珠, 山田茂樹, 草間幹夫. 膿胸関連リンパ腫の進展が疑われた下顎悪性リンパ腫の1例: 日本口腔外科学会雑誌, 2010, 56: 528-532.
- 4) Inoue, R., T. Kanazawa, M. Morita, Y. Iino, S. Yamada, and T. Ishida, Inverted papilloma of the middle ear: Otol Neurotol, 2011, 32: e7-8.
- 5) Yamamoto, H., M. Sekimoto, M. Oya, N. Yamamoto, F. Konishi, J. Sasaki, S. Yamada, K. Taniyama, H. Tominaga, M. Tsujimoto, H. Akamatsu, A. Yanagisawa, C. Sakakura, Y. Kato, and N. Matsuura, OSNA-Based Novel Molecular Testing for Lymph Node Metastases in Colorectal Cancer Patients: Results from a Multicenter Clinical Performance Study in Japan: Ann Surg Oncol. 2011 Feb 3.
- 6) Nakano T, Endo S, Tsubochi H, Nokubi M, Watanabe Y, Koyama S. Thymic clear cell carcinoma: Gen Thorac Cardiovascular Surg 2010; 58: 98-100.
- 7) Tan KY, Kawakami YJ, Mizokami K, Sasaki J, Tsujinaka S, Maeda T, Nobuki M, Konishi F. Distribution of the first metastatic lymph node in colon cancer and its clinical significance: Colorectal Disease 2010; 12: 44-47.
- 8) Kanazawa T, Nokubi M, Takizawa K, Matsuzawa S, Sinnabe A, Mineta H, Iino Y. KIT and PDGFR  $\alpha$  gene expression in laryngeal small cell carcinoma: J laryngol Otol 2010; 124: 1340-1343.
- 9) Miwa C, Koyama S, Watanabe Y, Tsubochi H, Endo S, Nokubi M, Kawabata Y. Pathological findings and pulmonary dysfunction after ARDS for 5 years: Inter Med 2010; 49: 1599-1604.

### 【学会・研究会】

- 1) 和田英則, 野田弘志, 徳光愛日, 遠山伸幸, 野首光弘, 小西文雄. 多彩な画像所見を呈したキャッスルマン病 (腫瘍) の1例. 第816回外科集談会,

東京, 2010年3月13日 (日本臨床外科学会雑誌 2010; 71, p2207-8).

- 2) 野首光弘, 菅原 斉. Multicentric Castleman's Disease (MCD) の再考. 第7回県内科医会・総合内科専門医会合同カンファレンス, さいたま, 2010年7月24日.
- 3) 武藤雄太, 金井義彦, 手塚憲志, 工藤史明, 白石守, 三輪千尋, 渡辺恭孝, 野首光弘, 小山信一郎, 遠藤俊輔. 石灰化を伴った大腸癌肺転移の1手術例. 第158回日本肺癌学会関東部会, 東京, 2010年6月13日 (肺癌2010; 50, p389).
- 4) 真木充, 関根理, 蓬原一茂, 櫻木雅子, 小西文雄, 野首光弘, 土橋洋, 山田茂樹. 乳腺原発紡錘細胞癌の1例 (日本臨床外科学会雑誌2010; 71増刊, p777).
- 5) 野首光弘, 山田茂樹: 若年発症DM例初回腎生検の間質変化. 第56回埼玉病理医の会, 越谷, 2010年11月12日.
- 6) 野首光弘: Serrated polyposis 術前EMRの2病変. 第57回埼玉病理医の会, さいたま, 2011年2月18日.
- 7) 野首光弘, 土橋洋, 山田茂樹. (世話人) 第55回埼玉病理医の会, 2010年6月25日 (診断病理 2010; 27 (3), s8).



## 総合医学2

### ■ 外科

#### 学会

- 1) 前田孝文, 鈴木浩一, 富樫一智, 野首光弘, 小西文雄: Sessile serrated adenoma の臨床病理学および分子生物学的特徴と前癌病変としての意義 第74回大腸癌研究会 2011.1.21 (福岡) 口演 (プログラム・抄録集 p 38)
- 2) 桑原悠一, 河村 裕, 佐々木純一, 辻仲眞康, 溝上 賢, 小西文雄: 当院における大腸非上皮性腫瘍 第74回大腸癌研究会 2011.1.21 (福岡) 示説 (プログラム・抄録集 p 101)
- 3) 佐々木智子, 山本玲子, 大島美津子, 深野利恵子, 辻仲眞康, 小西文雄: ストーマ外来における術前オリエンテーション導入効果と今後の課題 第35回埼玉ストーマリハビリテーション研究会 2011.1.29 (さいたま) 口演 (プログラム・抄録集 p 4)
- 4) 大島美津子, 佐々木智子, 深野利恵子, 辻仲眞康, 小西文雄: ダウン症患者のストーマ管理と社会参加の課題 第35回埼玉ストーマリハビリテーション研究会 2011.1.29 (さいたま) 口演 (プログラム・抄録集 p 7)
- 5) 小西文雄: 外科、肝・胆膵臓系、脳神経外科 第48回埼玉県医学会総会 2011.2.20 (さいたま) 座長 (プログラム・抄録集 p 3)
- 6) 高柳奈津子, 蓬原一茂, 櫻木雅子, 関根理, 野首光弘, 土橋 洋, 山田茂樹, 小西文雄: 転移巣におけるホルモン感受性・HER2status に変化のあった1症例 第48回埼玉県医学会総会 2011.2.20 (さいたま) 口演 (プログラム・抄録集 p 18-19)
- 7) 蓬原一茂, 田部井敏夫, 小嶋誠人, 竹内秀樹, 吉田 崇, 武井寛幸, 中野聡子, 井上賢一, 甲斐敏弘, 三宅 洋, 黒田 徹, 有澤文夫, 斉藤 毅, 黒住昌史, 秦 怜志: 閉経後乳癌術後内分泌療法と骨密度変化の関連と検討-SBCCSG06 (SAFE) trial より- 第48回埼玉県医学会総会 2011.2.20 (さいたま) 口演 (プログラム・抄録集 p 29-30)
- 8) 伊藤みのり, 野田弘志, 柿澤奈緒, 神山英範, 小西文雄: 胆嚢原発膵内分泌細胞癌の1例 第313回日本消化器病学会関東支部例会 2011.2.26 (東京) 口演 (プログラム p 11)
- 9) 辻仲眞康, 深野利恵子, 大島美津子, 小西文雄: ストーマ増設に伴う大腸癌患者の術後在院日数

- の短縮に向けた当科の取り組み 第28回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 2011.2.4-5 (福岡) 口演 (プログラム・抄録集 p 83)
- 10) 深野利恵子、大島美津子、辻仲眞康、小西文雄：術前にストーマ装具交換練習を取り入れた実践的オリエンテーションの効果 第28回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 2011.2.4-5 (福岡) 口演 (プログラム・抄録集 p 143)
- 11) 高田 理、清崎浩一、吉田卓義、齊藤正昭、千葉文博、周東千緒、小西文雄：緩和的外科治療『切除不能胃癌に対する化学療法への取り組み』第83回日本胃癌学会総会 2011.3.3-5 (青森) パネルディスカッション (プログラム・抄録集 p 130)
- 12) 周東千緒、清崎浩一、齊藤正昭、千葉文博、高田理、吉田卓義、小西文雄：高齢者の待機的胃癌手術131症例の検討 第83回日本胃癌学会総会 2011.3.3-5 (青森) ワークショップ (プログラム・抄録集 p 157)
- 13) 清崎浩一、周東千緒、齊藤正昭、千葉文博、高田理、吉田卓義、小西文雄：噴門部GISTに対する生物学的特性を考慮した腹腔鏡下全層胃局所切除術 第83回日本胃癌学会総会 2011.3.3-5 (青森) 口演 (プログラム・抄録集 p 181)
- 14) 吉田卓義、清崎浩一、千葉文博、齊藤正昭、高田理、小西文雄：経口摂取不能進行胃癌に対するS-1投与の検討 第83回日本胃癌学会総会 2011.3.3-5 (青森) 口演 (プログラム・抄録集 p 188)
- 15) 齊藤正昭、清崎浩一、周東千緒、千葉文博、高田理、吉田卓義、小西文雄：非治癒因子を有する高度進行胃癌に対するInduction Chemotherapyの有効性 第83回日本胃癌学会総会 2011.3.3-5 (青森) 口演 (プログラム・抄録集 p 194)
- 16) 千葉文博、清崎浩一、周東千緒、齊藤正昭、高田理、吉田卓義、小西文雄：食道胃接合部腺癌の手術症例の検討 第83回日本胃癌学会総会 2011.3.3-5 (青森) 口演 (プログラム・抄録集 p 240)
- 17) 鈴木康治郎、蓬原一茂、関根 理、櫻木雅子、小西文雄：TS-1が奏功した乳癌骨転移の1例 第24回関越DIF研究会 211.2.19 (東京) 口演
- 18) Konishi F : Sessile serrated adenoma of the clonogenic changes, malignant potential and clinical management-Our own data. International Colorectal Disease Symposium 2011.2.24-26 (Hong Kong) 口演

## 講演

- 1) 遠山信幸：看護師の行う医行為拡大について 埼玉県医師会勤務医部会パネルディスカッション 2011.1.27 (さいたま) パネルディスカッション
- 2) 遠山信幸：外科・手術における医療安全 国立保健医療科学院・医療安全管理者専門課程 2011.2.17 (和光) 講義
- 3) 遠山信幸：医療安全におけるチーム医療の役割 関東中央病院・医療安全講演会 2011.2.17 (東京) 講演

## 原著論文

- 1) 野田弘志、加藤高晴、神山英範、遠山信幸、青木厚、石川三衛、土橋 洋、小西文雄：原因不明の水様下痢で5年間経過した後確定診断と治療に至ったガストリノーマの1例 ENDOCRINE SURGERY 27 (4) 282-285 2010
- 2) Noda H, Suminaga Y, kato T, Kamiyama H, Konishi F : Laparoscopic adrenalectomy by general surgeons familiar with laparoscopic surgical skills ; Experiences of a single center Asian Journal of Endoscopic Surgery 4 (1) 16-19 2011
- 3) 良永康雄、清崎浩一、岡田晋一郎、小西文雄、山田茂樹：Granulocyte-colony-stimulating factor-producing gastric metastasis from largecell yype lung cancer Clin J Gastroenterol 4 10-14

## 著書

- 1) 小西文雄、木村泰三、森 俊幸、松田公志：日本内視鏡外科学会技術認定制度の現状；消化器・一般外科領域 消化器外科 へるす出版 2011.1.10 出版 34 (1) pp87-91
- 2) 周東千緒、遠山信幸：胆嚢管低位合流異常 肝・胆道系症候群Ⅲ 日本臨床社 2011.2.20出版 pp150-152

## ■ 呼吸器外科

### (論文)

- 1) Kanai Y, Endo S, Tetsuka K, Nokubi M. Pleural Solitary Fibrous Tumor with Bullae : Is it a Microinvasive Tumor? GenThoracSurg (in press)
- 2) 金井義彦、手塚憲志、坪地宏嘉、遠藤俊輔 原発性自然気胸に対するポリグリコール酸シートテント法 胸部外科 64 (4) (in press)



(著書、その他)

- 1) 手塚憲志 遠藤俊輔、山本真一 病態に基づいた膿胸の外科治療 呼吸 (in press)
- 2) 遠藤俊輔 1枚のシエーマ 胸部外科 Vol.64 No.4 (in press)

(学会発表)

- 1) 手塚憲志、金井義彦、遠藤俊輔：胸腔鏡下切除術後3年目に再発したSolitary fibrous tumorの1例 第155回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 3月5日 横浜
- 2) 真木 充 金井義彦 手塚憲志 三輪千尋 渡辺恭孝 土橋 洋 小山信一郎 遠藤俊輔：間質性肺炎非合併肺癌に対する左肺上葉切除術後対側に発症した急性間質性肺炎の一例 第160回日本肺癌学会 関東支部会 3月12日 東京
- 3) 中野智之 柴野智毅 峯岸健太郎 真木充 金井義彦 手塚憲志 遠藤俊輔 石川成美 蘇原泰則：白血病治療中に発症した縦隔アスペルギローマに対する胸腔鏡補助下傍胸骨切開摘出術の1例 第136回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 3月19日 東京

(講演座長)

- 1) 遠藤俊輔：胸腔鏡手術のピットフォール 埼玉県呼吸器外科教育セミナー 3月2日 (川越)
- 2) 遠藤俊輔：埼玉県呼吸器外科教育ラボ 3月6日 (富士宮)

■ 心臓血管外科

■ 原著論文

- 1) Okamura H, Yamaguchi A, Kimura N, Adachi K, and Adachi H. Partial resection of intravenous leiomyomatosis with cardiac extension. Gen. Thorac. Cardiovasc. Surg. 2011;59:38-41.
- 2) Okamura H, Yamaguchi A, Adachi K, and Adachi H. Mitral valve replacement in a case of dextrocardia with situs solitus. J. Heart Valve Dis. 2010;19:795-7.

■ 学会発表

- 1) 森田英幹、山口敦司、武部 学、白石 学、岡村 誉、長野博司、伊藤 智、内藤和寛、由利康一、安達秀雄. Off pump CABGにおける胸骨保護による縦隔炎予防 第25回心臓血管外科学会ウィンターセミナー 2011.1.26-28 鷲ヶ岳高原ホテル 岐阜

- 2) 山口敦司、由利康一、内藤和寛、森田英幹、伊藤 智、岡村 誉、堀 大治郎、武部 学、板垣 翔、佐藤哲也、吉崎隆道、安達秀雄. 薬剤溶出性ステント時代の冠動脈バイパス術 日本心臓血管外科学会雑誌 Vol.40 Supplement S4-2 p144 February 2011 第41回日本心臓血管外科学会学術総会 2011.2.23-25 東京ベイ舞浜ホテル
- 3) 由利康一、根本一成、森田英幹、堀 大治郎、内藤和寛、伊藤 智、山口敦司、安達秀雄. 狭小アクセスを有するConduit症例の検討 日本心臓血管外科学会雑誌 Vol.40 Supplement PP-059 p388 February 2011 第41回日本心臓血管外科学会学術総会 2011.2.23-25 東京ベイ舞浜ホテル
- 4) 伊藤 智、木村直行、坂倉建一、田中正史、内藤和寛、野口権一郎、由利康一、山口敦司、安達秀雄. 遠隔期成績からみた急性大動脈解離の治療戦略：下行大動脈以下の残存解離症例の検討 日本心臓血管外科学会雑誌 Vol.40 Supplement OP-26-6 p318 February 2011 第41回日本心臓血管外科学会学術総会 2011.2.23-25 東京ベイ舞浜ホテル
- 5) 荒川 衛、岡村 誉、内藤和寛、由利康一、山口敦司、安達秀雄. 再手術症例で大動脈基部再建術を行った13症例の検討 日本心臓血管外科学会雑誌 Vol.40 Supplement OP-30-4 p327 February 2011 第41回日本心臓血管外科学会学術総会 2011.2.23-25 東京ベイ舞浜ホテル
- 6) Satoshi Itoh, Naoyuki Kimura, Susumu Nakae, Robert C. Axtell, Jeffrey B. Velotta, Xi Wang, Yoichiro Iwakura, Lawrence Steinman, Robert C. Robbins, Michael P. Fischbein. IL-17 accelerates allograft rejection by suppressing regulatory T cell expansion. AHA Scientific Sessions 2010. Nov 13-17, 2010. Chicago, IL. USA.
- 7) Naoyuki Kimura, Satoshi Itoh, Jeffrey B. Vellota, Owen P. Palmer, Hisanori Kosuge, Ernst Jan Bos, Maarten Lijkwan, Hardy Kornfeld, Nakae Susumu, Robert C. Robbins, Michael P. Fischbein. Anti-apoptotic role of IL-16 associated with attenuation of acute and chronic cardiac rejection. ISHLT 30<sup>th</sup> anniversary annual meeting and scientific sessions, 2010. Apr 21-24, 2010. Chicago, IL. USA.
- 8) Naoyuki Kimura, Masashi Tanaka, Koji Kawahito, Satoshi Ito, Kenichiro Noguchi, Atsushi

Yamaguchi, Hideo Adachi.

Early and long-term surgical outcomes of acute type A aortic dissection in patients younger than 45 years old.

Aortic Symposium 2010. Apr 29-30, 2010. New York, NY, USA.

#### ■総論

- 1) 安達秀雄：書評「抗血栓療法ノウハウとピットフォール」井上 博 矢板正弘 矢富 裕 編集 南江堂 胸部外科 Vol.64 No.3 p2011-3 2011
- 2) 内藤和寛、安達秀雄：急性A型大動脈解離に対する外科治療「外科治療」 Vol.104 No.1 p85-90 永井書店 2011年1月
- 3) 山口敦司：老化の生物学 第3章老年病各論 15 外科 3. 循環器疾患の外科治療 In 新老年病学 3 東京大学出版会、東京、2010、1375-1383

#### ■講演・その他

- 1) 安達秀雄：心臓血管外科領域における輸血について—2009年埼玉県における血液使用状況、管理体制等に関するアンケート調査報告— 第2回埼玉輸血フォーラム：安全で適正な輸血のために 2011.2.19 さいたま赤十字病院
- 2) 安達晃一：第一回 救急勉強会 心臓血管外科の治療と救急疾患 三浦半島地区メディカルコントロール協議会 2010.5.25
- 3) 安達晃一：教育講演 心臓血管外科領域の手術と救急疾患 第一回 横須賀市救急症例検討会 2010.5.27
- 4) 田中正史：重症肺血栓塞栓症の外科治療 東葛肺高血圧研究会 2010年1月26日 三井ガーデンホテル柏

<2010年業績につきましては、昨年の「研究だより」に未掲載のものです。>

## ■整形外科

### 原著

- 1) 遠藤実、茂呂貞美、税田和夫、星野雄一：強直脊椎に合併した脊椎骨折後に対麻痺を来した3例. 整形外科61、427-430、2010

### 総説

- 1) 税田和夫：腰痛の治療～装具療法～. からだの科学266、97-100、2010
- 2) 税田和夫：化膿性脊椎炎. 今日の整形外科治療指針第6版 国分正一、岩谷力、落合直之、佛淵孝夫編、536-538、2010
- 3) 税田和夫：脊柱短縮術と看護. 整形外科看護2010 秋季増刊、106-111、2010
- 4) 税田和夫：脊柱管狭窄症－腰部に慢性に生じる腰部脊柱管狭窄症. 診断と治療98、1829-1834、2010

### 学会発表

- 1) 税田和夫、井上泰一、遠藤照顕、秋山達、遠藤実、上田祐輔、久光愛、神田翔太郎、菅野真彦：腰椎変性側弯症の術後成績. 第59回東日本整形災害外科学会. 盛岡、2010/09/17
- 2) 遠藤照顕、税田和夫、秋山達、遠藤実、久光愛、神田翔太郎：人工膝関節置換術の深部静脈血栓予防における術中ヘパリン投与と術後fondaparinux投与の併用療法の効果. 第59回東日本整形災害外科学会. 盛岡、2010/09/17
- 3) 菅野真彦、税田和夫、遠藤照顕、飯島裕生、上田祐輔：骨粗鬆症による脊椎後弯が原因の肋骨骨折と、それに続発した骨髄炎の1例. 第59回東日本整形災害外科学会. 盛岡、2010/09/17
- 4) 税田和夫、秋山達、遠藤照顕、遠藤実、久光愛、上田祐輔、神田翔太郎、井上泰一：腰椎変性側弯症における立位X線はどれほど重要か. 第18回日本腰痛学会、2010/10/30、札幌
- 5) 久光愛、税田和夫、秋山達、遠藤照顕、遠藤実、飯島裕生、神田翔太郎：抗血小板薬の内服が大腿骨頸部骨折患者に及ぼす影響についての検討. 第16回埼玉県骨粗鬆症研究会、2010/11/13、さいたま

### その他

- 1) 税田和夫：教育研修講演：骨粗鬆症性脊椎骨折－診断のピットフォールから手術まで－. 南多摩ブロック整形外科研修会. 八王子、2010/07/10

## ■ 整形外科

### ①学会発表

- 1) 秋山 達：無茎腓骨移植による骨盤輪再建を行った片側骨盤切除術10例の検討 第83回日本整形外科学会学術総会（平成22年5月27日～30日）東京国際フォーラム 東京
- 2) 秋山 達：類上皮肉腫、悪性神経鞘腫、原発不明がんの転移の鑑別に難渋している仙骨悪性腫瘍の一例 第43回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集（平成22年7月15日～16日）京王プラザホテル新宿
- 3) 秋山 達：抗RANKL合成ペプチドRANK-Fcによる骨肉腫肺転移抑制機構の解析 第43回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集（平成22年7月15日～16日）京王プラザホテル 新宿
- 4) Akiyama, T：THE EFFECTS OF RANK-FC AGAINST OSTEOSARCOMA IS PROVIDED BY AN UNPARALLELED MECHANISM OF NOT ONLY INHIBITING OSTEOCLAST ACTIVITIES BUT ALSO REDUCING TUMORIGENESIS DIRECTLY the CTOS 16th Annual Meeting, November 11-13, 2010

### ②その他

- 1) 秋山 達：当院における骨軟部腫瘍治療戦略の実際 第2回関節疾患連携の会 2010年10月26日 さいたま市

### ③学会研究などの内容、その他

Peer reviewed paper：

- 1) Clark J, **Akiyama T**, et al; RECK in osteosarcoma: a novel role in tumor vasculature and inhibition of tumorigenesis in an orthotopic model. *Cancer* 2011 Feb 1 Epub
- 2) Miki Y, **Akiyama T**, et al; The significance of size change of soft tissue sarcoma during preoperative radiotherapy. *Eur J Surg Oncol*. 2010 Jul; 36 (7) : 678-83.
- 3) **Akiyama T**, et al; The non-vascularised fibular graft: a simple and successful method of pelvic ring reconstruction following internal hemipelvectomy. *J Bone Joint Surg Br*. 2010 Jul; 92 (7) : 999-1005.
- 4) Clark J, **Akiyama T**, et al; New clinically relevant, orthotopic mouse models of human chondrosarcoma with spontaneous metastasis. *Cancer Cell Int*. 2010 Jun 28;10:20.
- 5) **Akiyama T**, et al; RANK-Fc inhibits malignancy via inhibiting ERK activation and evoking caspase-3-mediated anoikis in human osteosarcoma cells. *Clinical & Experimental Metastasis*. 2010 Apr;27 (4) : 207-15.
- 6) **Akiyama T**, et al; Systemic RANK-Fc protein therapy is efficacious against primary osteosarcoma growth in a murine model via activity against osteoclasts. *J Pharm Pharmacol*. 2010 Apr;62 (4) : 470-6.

### Review paper

- 1) **Akiyama T** et al; Bim: guardian of tissue homeostasis and critical regulator of the immune system, tumorigenesis and bone biology. *Arch. Immunol. Ther. Exp*. 2011 in press
- 2) Broadhead ML, **Akiyama T** et al; The pathophysiological role of PEDF in bone diseases. *CurrMol Med*. 2010 Apr;10 (3) : 296-301.

## ■ 耳鼻咽喉科

### <原著論文>

- 1) 松澤真吾、長谷川雅世、原 真理子、児玉 梢、新鍋晶浩、金沢弘美、金澤丈治、飯野ゆき子、太田 康：発症後長時間を経て診断に至った外傷性髄液耳漏の1例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科82 (11) 793-97, 2010. (医学書院)
- 2) 金沢弘美、長谷川雅世、原 真理子、松澤真吾、児玉 梢、新鍋晶浩、金澤丈治、飯野ゆき子：急速な喉頭浮腫をきたした悪性リンパ腫のⅡ症例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科82 (12) 889-92, 2010. (医学書院)
- 3) 新鍋晶浩、児玉 梢、金沢弘美、金澤丈治、飯野ゆき子：中耳ガス拡散能が一因と考えられた術後外耳道狭窄の1例. *Otol Jpn*20 (2) : 91-95, 2010.
- 4) Iino, Y., Tomioka-Matsutani, S., Matsubara, A., Nakagawa, T., Nonaka, M.: Diagnostic criteria of eosinophilic otitis media, anewly recognized middle ear disease. *Auris Nasus Larynx*. 2011 Jan 18.
- 5) Shinnabe, A., Hara, M., Matsuzawa,S., Hasegawa, M., Kodama, K., Kanazawa, H., Yoshida, N., Iino, Y.: A case of multiple abnormalities with eustachian tube obstruction by a protruded internal carotid artery. *Int J Pediatr Otorhinolaryngol*. 2011 Mar, 75 (3) : 441-3.



<学会発表>

- 1) 飯野ゆき子：ランチョンセミナー —耳鼻咽喉科領域におけるマクロライド療法を再検証する. 第20回日本耳科学会総会・学術講演会. Otol Jpn20 (4)：(抄録集 p65), 2010.
- 2) 原 真理子、児玉 梢、新鍋晶浩、金沢弘美、金澤丈治、飯野ゆき子：当科における、硬化性病変を伴った真珠腫性中耳炎症例の検討. 第20回日本耳科学会総会・学術講演会. Otol Jpn20 (4)：441, 2010
- 3) 新鍋晶浩、児玉 梢、金沢弘美、金澤丈治、飯野ゆき子：術後上鼓室含気化が術後アブミ骨周囲含気化および聴力成績に及ぼす影響. 第20回日本耳科学会総会・学術講演会. Otol Jpn20 (4)：592, 2010.
- 4) 児玉 梢、新鍋晶浩、金沢弘美、金澤丈治、飯野ゆき子：耳疾患のある小児症例の側頭骨 CT における副鼻腔陰影の検討. 第20回日本耳科学会総会・学術講演会. Otol Jpn20 (4)：646, 2010.
- 5) 吉田尚弘、原 真理子、松澤真吾、児玉 梢、新鍋晶浩、金沢弘美、飯野ゆき子：小児眼窩吹き抜け骨折症例. 第21回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会、宇都宮、2011年1月27-28日. (予稿集 p91,2011)
- 6) 松澤真吾、長谷川雅世、原 真理子、児玉 梢、新鍋晶浩、金沢弘美、吉田尚弘、飯野ゆき子：頸部リンパ節腫大により咽喉頭の血管性浮腫が生じ緊急気管切開術を施行した3例. 第21回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会、宇都宮、2011年1月27-28日. (予稿集 p151,2011)
- 7) 新鍋晶浩、原 真理子、松澤真吾、長谷川雅世、児玉 梢、金沢弘美、吉田尚弘、飯野ゆき子：患者の協力が得られず診療に苦慮した巨大中耳真珠腫の一男児例. 第21回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会、宇都宮、2011年1月27-28日. (予稿集 p164,2011)

<学会出席>

- 1) 飯野ゆき子、吉田尚弘：第29回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会、大分、2011年2月10-12日.

<著書・総説>

- 1) 星野志織、飯野ゆき子：患者からみたインフォームド・コンセントの実際 急性中耳炎. JOHNS26 (12), 1905-08, 2010.
- 2) 川城信子、飯野ゆき子、工藤典代、鈴鹿有子：「第110回日本耳鼻咽喉科学会臨床セミナー」女性医師が働きやすい環境 (1) -序言-. 日耳鼻

113: 719-20, 2010.

- 3) 鈴鹿有子、飯野ゆき子、川城信子、工藤典代：「第110回日本耳鼻咽喉科学会臨床セミナー」女性医師が働きやすい環境 (2) -女性医師の日本における実態-. 日耳鼻113: 721-26, 2010.
- 4) 工藤典代、飯野ゆき子、鈴鹿有子、川城信子、中島 格、高橋 姿、福田 諭：「第110回日本耳鼻咽喉科学会臨床セミナー」女性医師が働きやすい環境 (3) -日本耳鼻咽喉科学会女性会員に対するアンケート-. 日耳鼻113: 727-37, 2010.
- 5) 飯野ゆき子、湯村和子、川城信子：「第110回日本耳鼻咽喉科学会臨床セミナー」女性医師が働きやすい環境 (4) -自治医科大学における女性医師支援の取り組み-. 日耳鼻113: 738-41, 2010.

<その他>

- 1) 飯野ゆき子：巻頭言. Otol Jpn20 (5), 2010.
- 2) 飯野ゆき子：小児の副鼻腔炎と滲出性中耳炎に対するマクロライド療法. MEDICAMENT NEWS 第2037号. 2010年12月25日.
- 3) 飯野ゆき子：耳鼻咽喉科領域におけるマクロライド療法を再検証する. 日経 CME (日経メディカル同封別冊) 2011年1月.
- 4) 吉田尚弘、飯野ゆき子：特集：好酸球性炎症疾患「好酸球性中耳炎と好酸球性副鼻腔炎」Allergy From the Nose to the Lung. Vol.9 No.1. 2011.



## ■ 産婦人科

### 学会発表

- 1) 根津幸穂、浅尾有紀、林 由梨、満下淳地、小田切幸平、藤原寛行、今野 良. 月経困難症と血中脂肪酸分画. 2011年1月22-23日、エンドメトリオシス学会、東京.
- 2) 芝田 恵、根津幸穂、平嶋洋斗、大井朝子、林 由梨、浅尾有紀、根津幸穂、坂田麻理子、林 由梨、満下淳地、今野 良. 当科の卵巣がん治療の現状. 第16回さいたま新都心産婦人科懇話会、2011年2月17日、さいたま.
- 3) 大井朝子、根津幸穂、浅尾有紀、林 由梨、平嶋洋斗、満下淳地、芝田 恵、坂田麻理子、今野 良. 腹腔鏡下子宮全摘出術の術式別手術成績. 第12回埼玉県産婦人科内視鏡研究会、2011年2月26日、さいたま.
- 6) 梅本尚可、飯田絵理、中村考伸、吉田龍一、石川勝也、正木真澄、加倉井真樹、平塚裕一郎、山田朋子、出光俊郎、成田多恵、新井浩之、塩之谷香：自治医大さいたま医療センター皮膚科における過彎曲杖（巻爪）のユニークな治療法. 第29回日本臨床皮膚外科学会総会、名護市、2月25-26日、2011年.
- 7) 吉田龍一、山田朋子、石川勝也、中村考伸、飯田絵理、正木真澄、平塚裕一郎、加倉井真樹、梅本尚可、出光俊郎：前鋸筋下に発生した筋層間脂肪腫の1例. 第29回日本臨床皮膚外科学会総会、名護市、2月25-26日、2011年.
- 8) 吉田龍一、山田朋子、石川勝也、中村考伸、飯田絵理、正木真澄、平塚裕一郎、加倉井真樹、梅本尚可、出光俊郎、佐々木 薫：外耳道基底細胞癌の2症例. 第29回日本臨床皮膚外科学会総会、名護市、2月25-26日、2011年.
- 9) 成田多恵、中村美智子、吉田龍一、飯田絵理、梅本尚可、山田朋子、加倉井真樹、出光俊郎：認知症、パーキンソン病合併の92歳、Ⅱ度18%熱傷の手術例. 第29回日本臨床皮膚外科学会総会、名護市、2月25-26日、2011年.

## ■ 皮膚科

### 学会発表

- 1) 中村考伸、吉田龍一、飯田絵理、加倉井真樹、梅本尚可、山田朋子、出光俊郎、寺井千尋、野首 光 弘：Palisaded neutrophilic granulomatous dermatitis の1例. 第74回日本皮膚科学会東京支部学術大会、東京、2月11日、2011. (program p.232)
- 2) 吉田龍一、山田朋子、佐々木薫、石川勝也、中村考伸、飯田絵理、平塚裕一郎、加倉井真樹、出光俊郎：外耳道に発生した基底細胞癌の2例と文献的考察. 第74回日本皮膚科学会東京支部学術大会、東京、2月11日、2011. (program p.253)
- 3) 山田朋子、梅本尚可、中村考伸、飯田絵理、吉田龍一、正木真澄、平塚裕一郎、出光俊郎、中山祐介：サウナ生活者にみられた尋常性膿瘡の1例. 第74回日本皮膚科学会東京支部学術大会、東京、2月11日、2011. (program p.263)
- 4) 飯田絵理、吉田龍一、中村考伸、山田朋子、出光俊郎、若旅功二：急性リンパ性白血病で全身放射線歴のある患児の基底細胞母斑症候群. 第74回日本皮膚科学会東京支部学術大会、東京、2月11日、2011. (program p.279)
- 5) 山田朋子、中村考伸、中村美智子、飯田絵理、吉田龍一、梅本尚可、正木真澄、平塚裕一郎、加倉井真樹：円形脱毛症に対するステロイドパルス療法：自治医大さいたま医療センター施行令の検討. 第29回日本臨床皮膚外科学会総会、名護市、2月25-26日、2011年.
- 10) 加倉井真樹、出光俊郎、梅本尚可、安澤数史、望月 隆：茨城県西部中学校柔道およびサッカー部員にみられた Trichophyton tonsurans による白癬の4例. 第75回日本皮膚科学会茨城地方会、つくば市、3月6日、2011.
- 11) 山田朋子、飯田絵理、中村考伸、吉田龍一、出光俊郎：難治性乾癬に対するインフィリキシマブの効果—5例のまとめと問題点. 乾癬治療地域連携講演会、さいたま市、1月17日、2011年
- 12) 吉田龍一、出光俊郎、清澤智晴：陳旧性顔面神経麻痺による口角下垂に対する骨膜弁を用いた静的再建術. 第48回埼玉県医学会総会、さいたま市、2月20日、2011年

## 編集後記

今回の発行にあたりましては、とてもお忙しい中、阿古先生をはじめ多くの方々から原稿の提供があり、ご協力をしていただきましてありがとうございます。

さて、春といえば、美しい花のシーズンですが、同時に花粉症の季節でもあります。代表的なスギ花粉症が初めて報告されたのは、近くに有名な杉並木がある栃木県日光地方だと言われています。またこのスギ花粉症は2月から5月頃に発生し、風邪による急性鼻炎と区別が付きにくい傾向があります。今では、全国ネットのテレビで花粉情報を流すくらいですから、それだけ関心が高いといえるのではないのでしょうか。鼻水がとまらない、目が痒い、体がだるくなったりしますから、日々の生活に悪影響を及ぼしかねません。

花粉症予防は、帰宅後の洗顔、うがい、外出時のマスクの着用が基本ですが、最も大事なことは十分な睡眠をとって疲労やストレスをためないようにすること、かぜをひかないように自分なりに工夫することだそうです。新年度が始まり、新しい職場環境で慣れない仕事をするのも多いこの季節こそ、特に注意したいものです。

(A)



自治医科大学附属さいたま医療センター  
研究だより 第27号

発行日 平成23年4月20日  
発行 自治医科大学附属さいたま医療センター  
発行責任者 センター長 川上 正舒  
編集 事務部 総務課  
BSL 宿舎・研修施設事務室  
〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847  
TEL. 048-647-2111  
FAX. 048-648-5166  
題字 川上 正舒 センター長

印刷 第一印刷(株)